



JAPAN EMF INFORMATION CENTER

2024年度業務実施状況

電磁界情報センター

2024年度業務実施状況【情報調査G】(1/3)

1. 情報収集・調査

1-1. 国内外の電磁界関連情報(1次情報)の収集

- 【公的機関などによる発表】コンサルタント会社との情報配信契約による情報収集
 - 【研究動向】ドイツ・アーヘン工科大学が運営する世界最大規模の研究情報データベースであるEMF-Portalと連携した幅広い情報収集
 - 【社会動向】市民団体機関誌購読、イベント参加、コンサルタント会社との情報配信契約による情報収集
- 公的機関などによる発表14件、研究動向284件、社会動向11件収集
(2月末現在)

1-2. 入手した1次情報の詳細調査

- 職員による文献調査、関係者インタビュー、現地調査などによる情報検証

2024年度業務実施状況【情報調査G】(2/3)

2.情報整理・評価

2-1.電磁界データベースの整備

- 引き続き、EMF-Portalとの連携により入手する情報の随時翻訳を行うとともに、学術論文の整理・登録を実施 **【詳細説明1】**
- 国内外の電磁波関連公文書も継続的に登録

2-2.報道等の内容精査

- 新聞記事および最近出版された書籍を中心に、記事内容の関係者インタビューや関係文献の調査を行い、結果の公表、報道機関への連絡等を実施

2024年度業務実施状況【情報調査G】(3/3)

3.磁界レベルに関する調査(磁界測定プロジェクト)

3-1.直流送電線から発生する静磁界の調査

- ・調査結果の概要をJEICNEWSおよびウェブサイトで2025年4月公表予定

3-2.ハンディファンから発生する磁界の調査 [詳細説明2]

- ・調査結果の概要をJEICNEWS(2024年12月)およびウェブサイト(2025年2月)で公表

3-3.自動車から発生する磁界の調査 [詳細説明2]

- ・2024年8～10月、磁界測定を実施し、調査結果について、2025年3月の電気学会全国大会で発表
- ・今後、BioEM 2025(2025年6月/フランス・レンヌ)にて発表予定

3-4. スマートメーターから発生する電磁波の調査 [詳細説明2]

- ・調査結果について、電気学会電磁環境研究会(10月・秋田)にて発表
- ・今後、BioEM 2025(2025年6月/フランス・レンヌ)にて発表予定

2024年度業務実施状況【情報提供G】(1/3)

1. 情報提供ツールの整備

1-1. ホームページ

- 最新情報の提供
 - 更新回数36回(2月末現在):
[海外の動向14回、論文の紹介22回(新規論文数284)]
- 英語版ホームページのリニューアル(2024年12月公開) **[詳細説明3]**

1-2. SNSによる情報提供

- Facebook等を活用した講演会、WEBセミナー等の情報発信 **[詳細説明4]**
- 新たな情報提供チャネルについて **[詳細説明4]**

1-3. ニュースレター・メールマガジン

- ニュースレター、メールマガジンを継続的に発行
 - ニュースレター 年3回発行(通算71号)
 - メールマガジン 毎月発行

2024年度業務実施状況【情報提供G】(2/3)

2. 双方向コミュニケーションの実施

2-1. 問い合わせ対応

- 電話、メール、FAXによる電磁界の健康影響に関する問い合わせ対応
 - 1047件(平均95.2件/月)(2月末現在) **【詳細説明5】**

2-2. 対象層特化活動(妊婦の知識啓発)

- 母子衛生研究会との連携による母子健康手帳副読本配布に併せたパンフレット配布及び母子保健関係者セミナー事業の継続実施 **【詳細説明6】**
- 「健やか親子21」参加団体との連携

2-3. 情報の媒介者を対象とした情報提供活動

- 学校保健・社会医学・看護学関連学会等でのランチオンセミナーの開催
 - 11件(8件実施済、予定3件)(2月末現在) **【詳細説明7】**

2-4. 依頼講演会

- 行政、団体、事業者、教育機関等からの講師派遣依頼への対応
 - 19件実施済 **【詳細説明8】**

2024年度業務実施状況【情報提供G】(3/3)

2. 双方向コミュニケーションの実施(続き)

2-5. WEBセミナー

- 一般向けのWEBセミナーを継続実施
 - 6回実施済 **【詳細説明9】**

3. リスクコミュニケーション促進活動

3-1. 磁界測定器貸出

- 低周波磁界測定器の貸出を継続実施
 - 282件(平均25.6件/月)(2月末現在) **【詳細説明10】**

3-2. EMFリスクコミュニケーションの国際協力

- 電磁界のリスク認知調査結果について、BioEM 2025(2025年6月/フランス・レンヌ)にて、日本・ドイツ・ポーランドの3カ国で同時発表予定 **【詳細説明11】**

2024年度業務実施状況【管理G】

1. 賛助会員の維持・拡大に向けた取り組み

- ・ 賛助会員（会費）について、ニュースレターやJEIC活動報告等による最新情報の提供、講演会等の機会を活用した賛助会員の募集により維持・拡大を図る。

2. 各種委員会の開催

2-1. 運営委員会

- ・ 議論を中心とした年2回程度の開催運営

3. センター内教育の実施

- ・ 転入職員に対するセンター内教育の実施

4. 国内外における学会発表

- ・ 国際学会：5件（EMC Japan/APEMC Okinawa：1件、BioEM2024：3件、SRA2024：1件）
- ・ 国内学会：3件（医用生体電磁気学シンポジウム、電気学会電磁環境研究会、電気学会全国大会）

詳 細 説 明

1. EMF-Portal、電磁界情報データベース..... p.9
2. 磁界測定プロジェクト..... p.10～17
3. 英語版ホームページリニューアル..... p.18～19
4. SNSによる情報提供..... p.20～21
5. 問い合わせ対応状況..... p.22～24
6. 対象層特化活動(妊婦の知識啓発)..... p.25
7. 情報の媒介者を対象とした情報提供活動・・ p.26
8. 依頼講演会..... p.27
9. WEBセミナー..... p.28～30
10. 磁界測定器貸出..... p.31～32
11. EMFリスクコミュニケーションの国際協力・ p.33

1. EMF-Portal、電磁界情報データベース

海外機関との連携（EMF-Portalへの参画）

○EMF-Portal参画（協定締結）：2024年9月契約更新

2024.10.1から5年間の継続契約

【EMF-Portalの概要】

運 営	ドイツ・アーヘン工科大学医学部病院 職業医学研究所生体電磁気相互作用研究センター（ <i>femu</i> ）
目 的	一般（研究者、政治家、医者、法律科、ジャーナリスト、及びその他関心のある人々全般）向けの電磁界関連情報データベース
規 模	登録件数（タイトルのみなども含む総情報数） 約46,182件（前年：41,400件）の内、健康影響に関連する約8,870件（前年：7,900件）の詳細情報掲載。
情報種別	生物学、疫学、工学、規制など
言 語	英語、ドイツ語、（JEIC参画後は）日本語
その他	登録情報数は世界最大規模

電磁界情報データベースへの登録状況

一般の方がアクセスできるJEIC「電磁界情報データベース」にも登録（18,606件[2025.2末時点]（前年18,315件））

2. 磁界測定プロジェクト(1/9)

ハンディファンから発生する磁界の調査

2025年2月ウェブサイト公開(抜粋)

身のまわりの磁界の大きさ

ハンディファンから発生する磁界の大きさについて

目的

日本や韓国などでは、夏の酷暑時に、ハンディファンを使用する人が増えています。特に、若者を中心に夏の定番ファッションに位置付けられるなど流行しており、多種多様なハンディファンが市販されています。

電磁界情報センターでは、これまで様々な種類の家電製品等から発生する磁界の大きさを測定し、ウェブサイト、パンフレット、講演会の資料等で公開してきましたが、今回はハンディファンから発生する磁界を測定しました。なお、本内容は、2024年4月24日に開催された医用生体電磁気学研究会（第16回医用生体電磁気学シンポジウム）および2024年6月に開催されたBioEM2024（in Chania, Crete（Greece））で発表しております。

機種選定

インターネット上で人気のハンディファンの中から、メーカーの重複を避け、様々なタイプの形状や使用方法の8種類のハンディファンを選定しました。

機種選定

インターネット上で人気のハンディファンの中から、メーカーの重複を避け、様々なタイプの形状や使用方法の8種類のハンディファンを選定しました。



機種	メーカー	仕様		使用方法		
		羽根有無	冷却プレート有無	手持	首下	首掛
M①	A社	○	×	○		
M②	B社	○	○	○		
M③	C社	○	×	○	○	
M④	D社	○	×	○	○	
M⑤	E社	○	×			○
M⑥	F社	○	×		○	
M⑦	E社	○	×			○
M⑧	G社	×	○			○

測定結果

(1) 磁界測定値

測定した磁界の値を図4に示します。

機器の違い（形状・冷却方式・性能・使用方法などの違い）により、それぞれの磁界の最大値（実効値）は若干異なるものの、いずれも国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）のガイドラインの参考レベル（200 μ T：25Hz～400Hz）を下回りました。

機種	最大値 (実効値)	ピーク 周波数	測定距離	機種	最大値 (実効値)	ピーク 周波数	測定距離
M①	0.73 μ T	127Hz	10cm	M⑤	1.99 μ T	196Hz	0cm
M②	0.09 μ T	50Hz	10cm	M⑥	3.66 μ T	135Hz	0cm
M③	2.58 μ T	153Hz	0cm	M⑦	0.22 μ T	465Hz ※1	0cm
M④	1.52 μ T	206Hz	0cm	M⑧	0.42 μ T	242Hz	0cm

※1 ICNIRPガイドラインの参考レベル（465Hzでは172 μ T）

2. 磁界測定プロジェクト(2/9)

自動車（EV、HV、ガソリン車）から発生する磁界の調査

IEC 62764-1に基づき低周波磁界を測定する。

【測定方法】

○テストコースでの実走行中の磁界を測定

【測定条件】

○以下の4つのモードで測定

- ①: アイドリング状態
- ②: 40±8km/hで、定速走行している状態
- ③: 0～90km/hの間で、加速度 2.5m/s^2 以上で加減速している状態
- ④: 充電中の状態(EV、PHEV)

【対象車両】

車両の大きさが同等の3車種選定[リーフ(EV)・プリウス(PHEV)・カローラ(ガソリン車)]

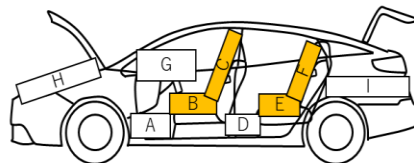
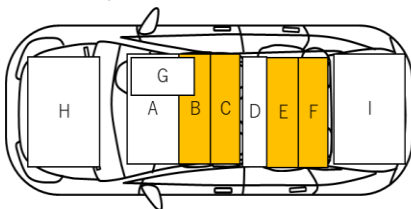


リーフ(EV)

プリウス(PHEV)

カローラ(ガソリン車)

【IEC規格に基づく測定箇所】



凡例

- 測定距離:プローブ中心から6.5cm
- 測定距離:プローブ中心から20cm



使用した磁界測定器
(Narda S.T.S.社製 ELT-400)

2. 磁界測定プロジェクト(3/9)

自動車（EV、HV、ガソリン車）から発生する磁界の調査

【測定結果】

○最大磁界レベル

各車種の全ての測定条件の中で測定された磁界(実効値)の最大値を表に示す。

- EV, PHEVにおいては、後部座席シート上(E, 測定距離6.5cm)で最大値を測定。
- ICEVにおいては、運転席側ダッシュボード上(G, 測定距離20cm)で最大値を測定。
- 最大磁界レベルでは、PHEVが一番測定値が高く、ICEVの方がEVより高い結果となった。

(μT)

測定位置	A	B	C	D	E	F	G	H	I	車両外部	充電ケーブル	充電ソケット	バックグラウンド磁界	最大値の測定モード
測定距離(cm)	20	6.5	6.5	20	6.5	6.5	20	20	20	20	20	20		
EV	3.24	1.87	1.87	2.73	<u>4.67</u>	<u>4.67</u>	4.39	1.31	0.44	0.83	0.54	0.58		ダイナミック加速
PHEV	3.43	2.08	2.08	9.10	<u>20.2</u>	16.8	2.56	0.80	1.92	1.03	0.44	0.41	0.31	ダイナミック減速
ICEV	4.32	2.09	2.09	4.92	7.78	7.78	<u>8.78</u>	0.54	1.66	0.93	—	—		停止モード

2. 磁界測定プロジェクト(4/9)

自動車（EV、HV、ガソリン車）から発生する磁界の調査

【評価】

- 複数の低周波の周波数成分が測定されているため、これらの値の国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)ガイドラインの一般公衆への参考レベルに対する割合を加算した値における評価(ICNIRPの評価方法, 加算値が1以下であればガイドラインを満足)を行ったが、全て1より低かった。

測定位置	A	B	C	D	E	F	G	H	I	車両外部	充電ケーブル	ソケット
EV	0.04	0.01	0.01	0.01	0.04	0.04	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
PHEV	0.06	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
ICEV	0.06	0.03	0.03	0.12	0.09	0.09	0.05	0.03	0.04	0.02	—	—

ICNIRPの評価方法

$$f(x) = \sum_{j=1\text{Hz}}^{100\text{kHz}} \frac{H_j}{H_{r,j}} \leq 1$$

H_j : 周波数 j での磁界強度
 $H_{r,j}$: 周波数 j での磁界強度の参考レベル

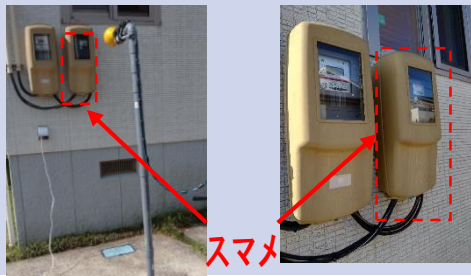
【学会発表】

電気学会 全国大会[2025/3/18、東京]にて発表済。BioEM 2025(2025年6月/フランス・レンヌ)にて発表予定

2. 磁界測定プロジェクト(5/9)

スマートメーター（スマメ）から発生する電磁波の調査

- ・ 設置状況が極力重複しないように、戸建、集合住宅（各戸設置箇所、集中設置箇所）にて測定した。

測定場所 (供給電力会社)	測定 建物	スマメ設置場所		設置状況・測定風景
宮城県 (東北電力NW)	戸建	各戸 設置	外壁設置 (カバーあり)	
東京都 (東京電力PG)	集合 住宅	各戸 設置	メーターボックス内 設置	
埼玉県 (東京電力PG)	集合 住宅	集中 設置	メーターボックス内 設置	

【学会発表】

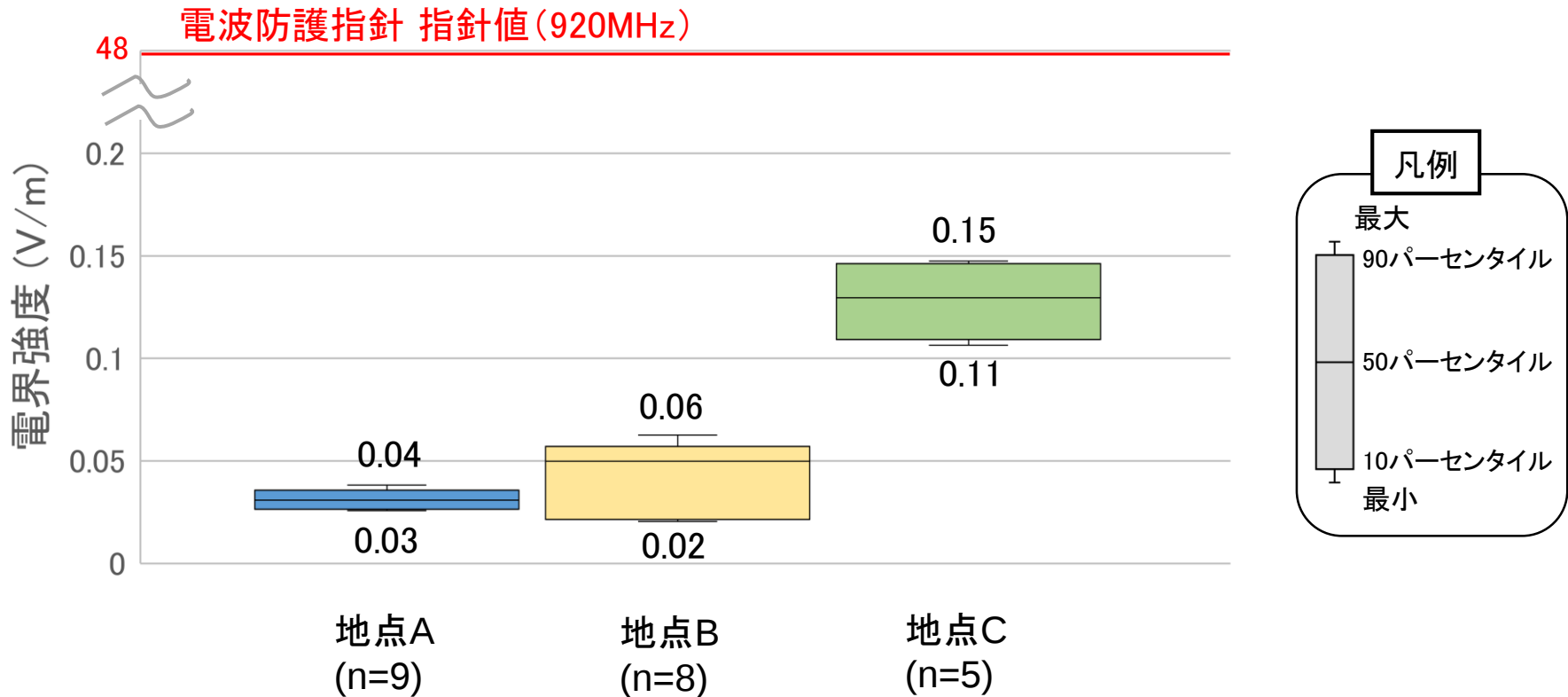
電気学会 電磁環境研究会(電子情報通信学会と連催) [2024/10/17、秋田]にて発表済。

BioEM 2025(2025年6月/フランス・レンヌ)にて発表予定

2. 磁界測定プロジェクト(6/9)

測定結果(電界強度)

- 電波防護指針の指針値への適合評価をするため、1回あたりの測定時間を原則6分間とし、同一条件で複数回実施した。
 - スマホから0.1m離れたところ(同じ高さ)で測定した。
- 電界強度の測定値(6分間平均値)は0.02~0.15V/mであり、電波防護指針の指針値(920MHz: 48V/m)を下回っていることが確認できた。



2. 磁界測定プロジェクト(7/9)

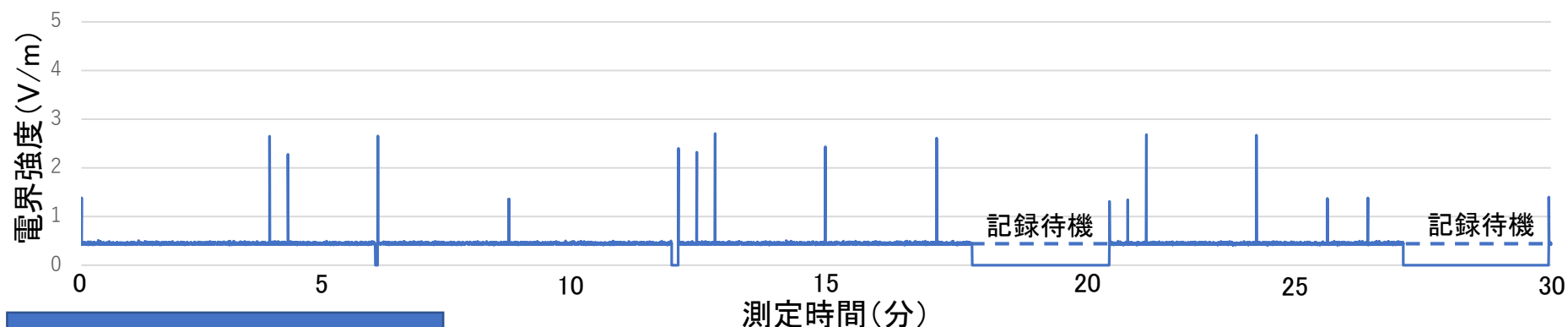
測定結果(30分間の発生回数調査)

- スマメは30分毎の電力使用量を計測していることから、ゼロスパンモード(RBW; 10 MHz)で30分間のスマメの信号発生回数を測定した。
 - データの記録時間は1回6分間とし、連続30分以上の測定を行った。
- 信号の発生間隔に規則性は見られなかった。最小間隔: 約2秒, 最大間隔: 約4分

地点A 発生回数 17回

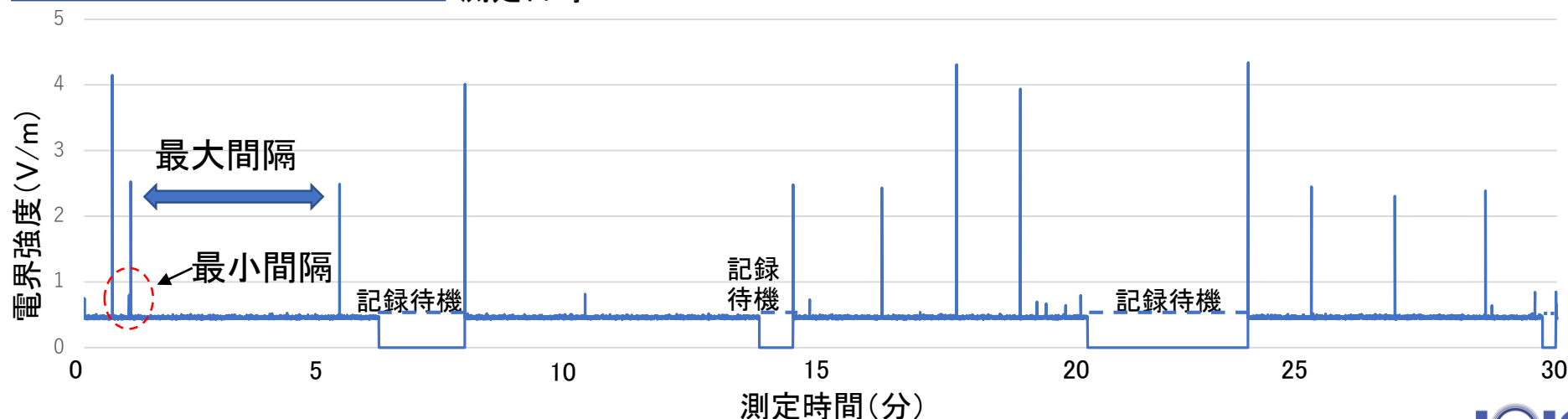
測定日時: 2024.4.11 13:09~13:39

※記録待機: 電波検出までの記録待機



地点B 発生回数 23回

測定日時: 2024.4.24 10:56~11:26

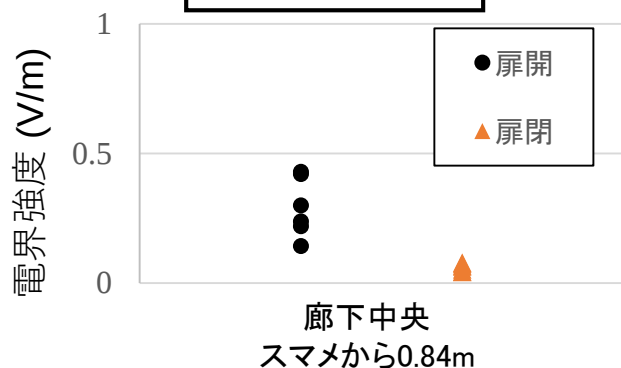


2. 磁界測定プロジェクト(8/9)

金属製扉の影響調査

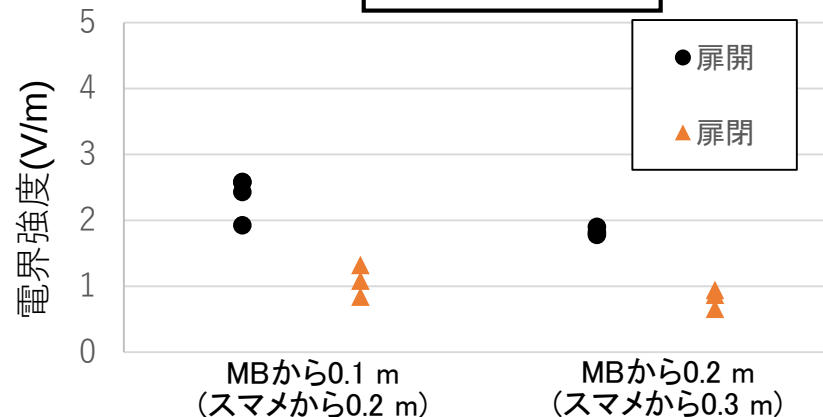
- メーターボックス(MB)の扉(金属製)を開けた場合と、閉めた場合の電界強度(最大値)を測定し、比較した。
- いずれの場合においても、金属製の扉を閉めた場合の電界強度が小さくなることが確認できた。

地点B



MBの前面は金属製の扉が設置されている。
それ以外の面はコンクリート製であった。

地点C



MBは全面金属製で、スマメの表示が見えるように扉にガラス製の窓が設置されていた。

2. 磁界測定プロジェクト(9/9)

鉄道から発生する磁界の調査

【目的】

- ・鉄道車両内、鉄道設備からの磁界ばく露による健康影響を懸念する声(問合せ事例)があるが、日本では、鉄道車両および鉄道設備からの磁界の測定報告が少ないことから、2025年度に磁界測定を計画する。

【測定方法】

- ・一般公衆が安全・容易に立ち入ることができる場所で、運行中の鉄道車両内および鉄道設備(線路の周辺、踏切、駅構内、プラットフォーム、変電所等)の周辺における磁界測定を実施する。
- ・JIS E 0201:2024(IEC-62597)(鉄道規格)および鉄道に関する技術上の基準を定める省令の解釈基準(鉄道技術基準)に準じて測定する。

【測定対象】

- ・2025年度については、営業設備の多い以下の鉄道車両および鉄道設備について測定を行う。→新幹線(東海道新幹線)・在来線(直流・交流架空方式)

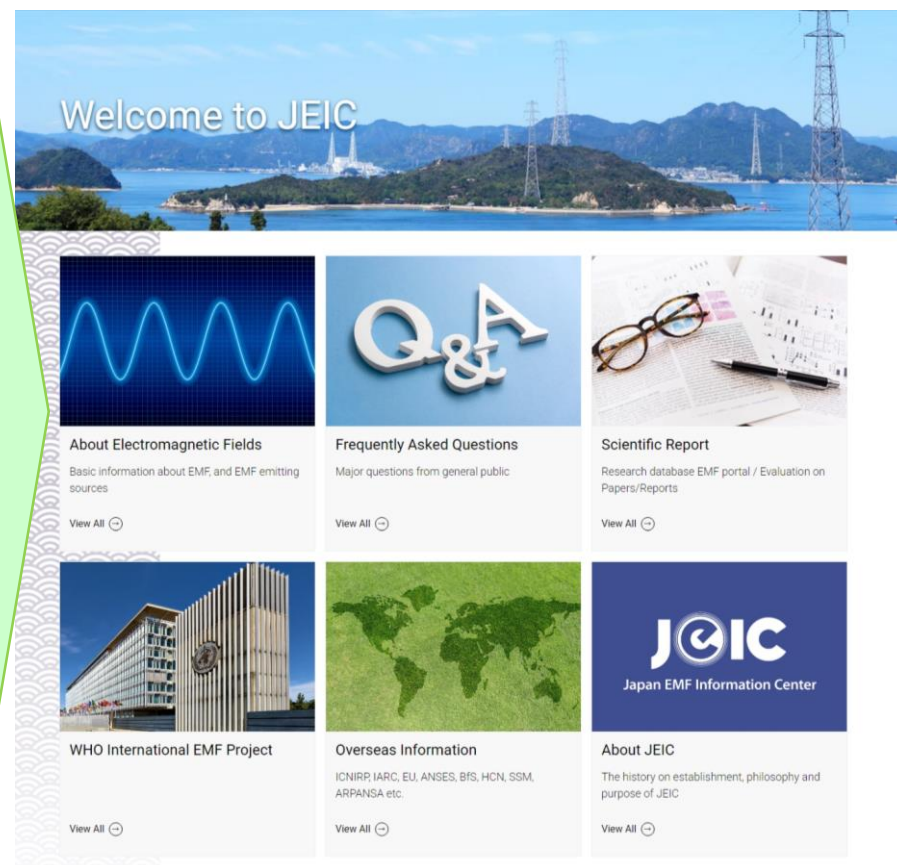
3. 英語版ホームページリニューアル(1/2)

- 日本語版HPリニューアル(2023/3)の内容に準じ、英語版HPのリニューアルを行い、
2024年12月に新英語版HP運開(<https://www.jeic-emf.jp/english/>)

参考：旧英語版HP



参考：新英語版HP



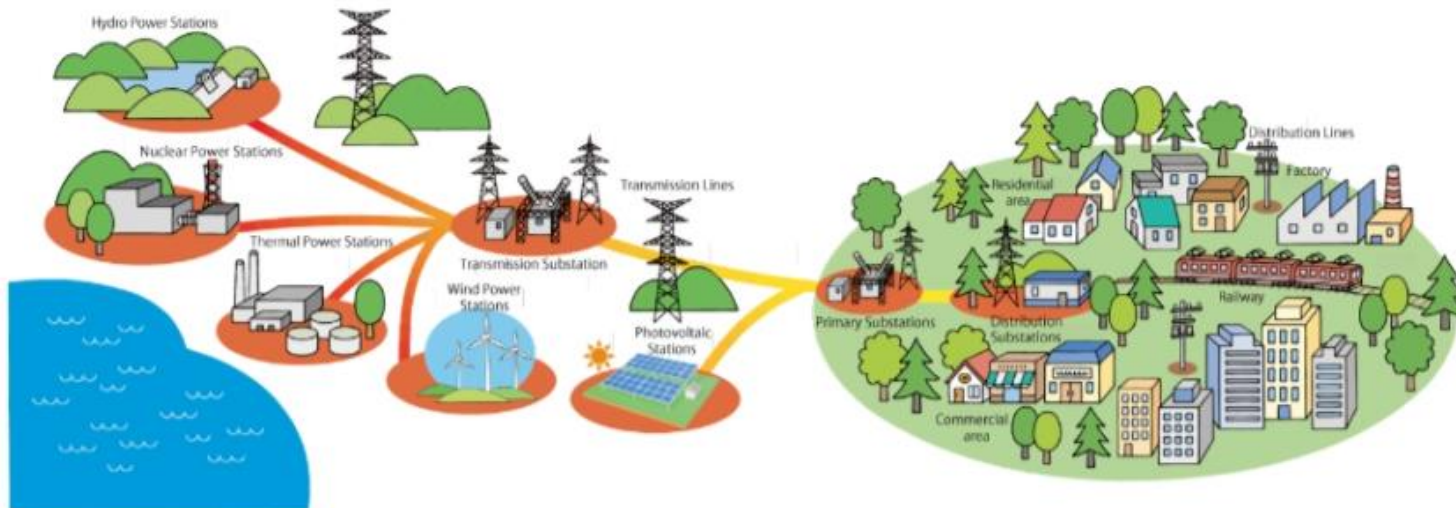
3. 英語版ホームページリニューアル(2/2)

参考：新英語版HP

EMF Sources around Us

Electric Power Facilities

Electricity is generated at various types of power stations including "nuclear power stations", "thermal power stations", "hydro power stations", "wind power stations" and "photovoltaic stations" etc. It is then transmitted to homes and factories via transmission lines, substations and distribution lines. The collective term for these structures is referred to as "electric power facilities".



4. SNSによる情報提供(1/2)

2025年2月末現在

1. Facebook等を活用した講演会、WEBセミナー等の情報発信

Facebook、XでWEBセミナー開催案内や講演会実施結果報告、センター活動紹介などを積極的に情報発信している。

➤ Facebook
発信回数35回

➤ X
発信回数27回

Facebook (WEBセミナー開催案内)

送電線や家電製品などの電磁波について
世界保健機関の見解を紹介します

無料WEBセミナー (Zoom開催)
【日時】2月1日(土) 10:00 ~ 11:00



2月1日(土)
【無料WEBセミナー】「送電線や家電製品などの電磁波について世界保健機関の見解を紹介します」
〒105-0014 港区 (Japan・東京都) 東京都港区芝2-9-11 全日電工連会館3階
参加者1人・興味あり1人

Facebook (講演会実施結果報告)



X (旧Twitter) (活動紹介 (ラフチョン講演))



4. SNSによる情報提供(2/2)

2. 新たな情報提供チャンネルについて

より多くの方々に電磁界の健康影響について認識を深めてもらうために、従来のFacebook、Xの情報発信に加え、新たなチャンネルとして来年度よりYouTube上で動画を公開する。

(1) 公開動画について

➤ 既存動画の活用

- ・現在ホームページ上で公開している、動画10本のうち3本の動画(JEICの紹介、電磁界の概要、身のまわりの電磁界)について、一部編集し活用する。

(YouTube上で公開した動画のリンクをFacebook、HP等に貼付け)

➤ 新規動画の作成

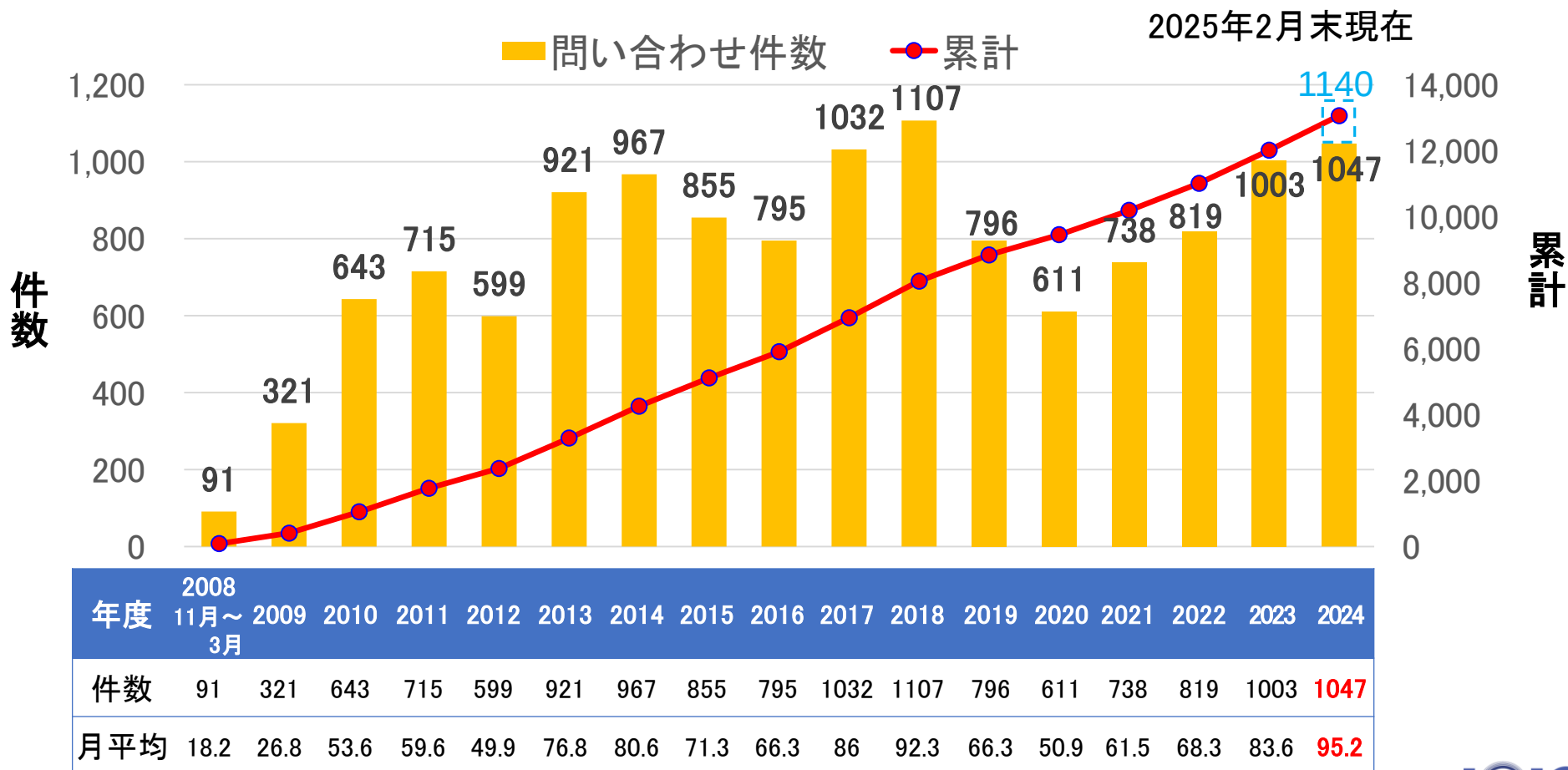
- ・既存動画のうち、残りの動画7本は、情報更新のため新たに作成する。
- ・その他動画については、インフルエンサーの活用を含めて、動画公開後の閲覧数等を確認しながら検討を進めていく。



5. 問い合わせ対応状況(1/3)

問い合わせ件数（年度別推移）

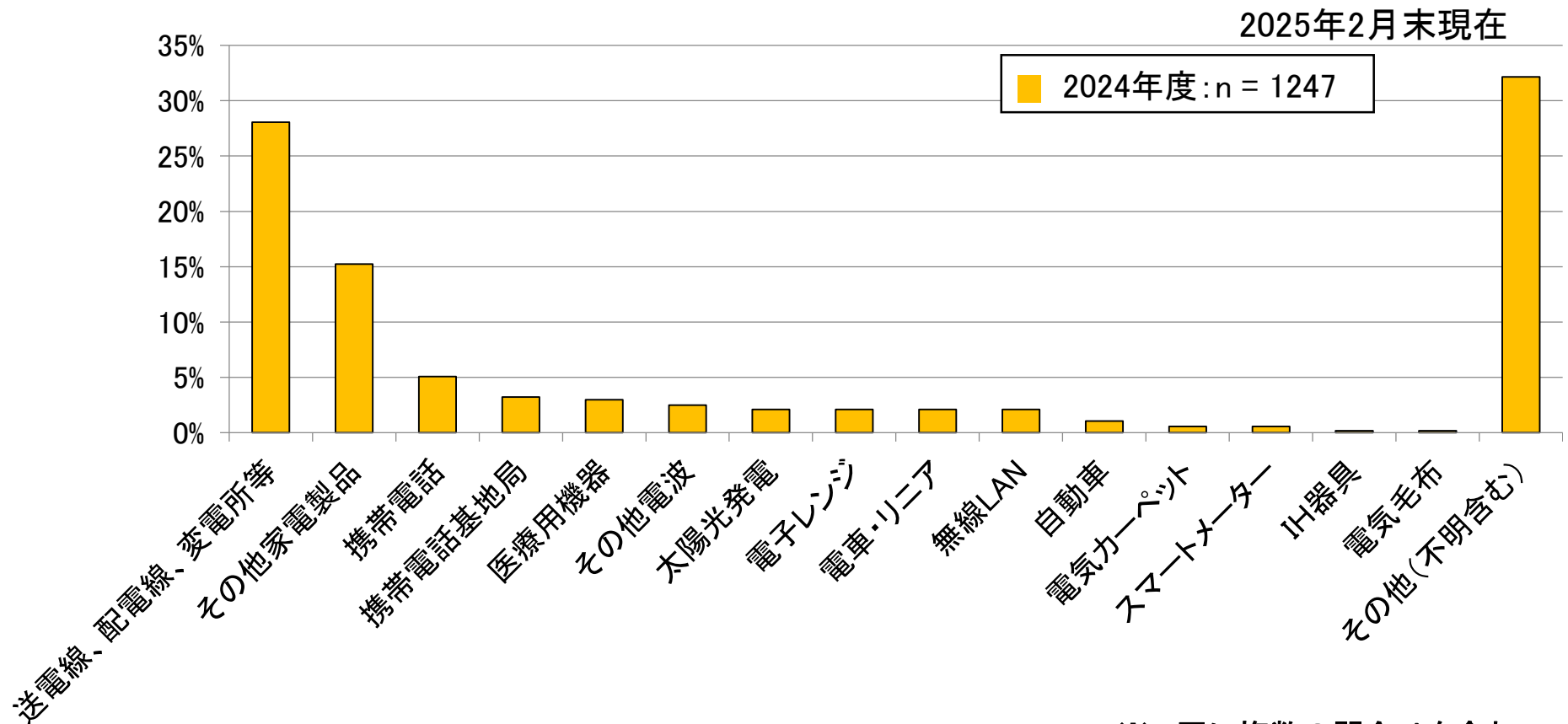
- 2024年度の問い合わせ件数は、昨年度同時期(926件)と比較し増加しており、過去最高となる見通し。



5. 問い合わせ対応状況(2/3)

発生源別（複数回答）

- 問い合わせの発生源は、昨年度と同じ傾向である。
- 電力設備に関する問い合わせの割合が多い傾向。

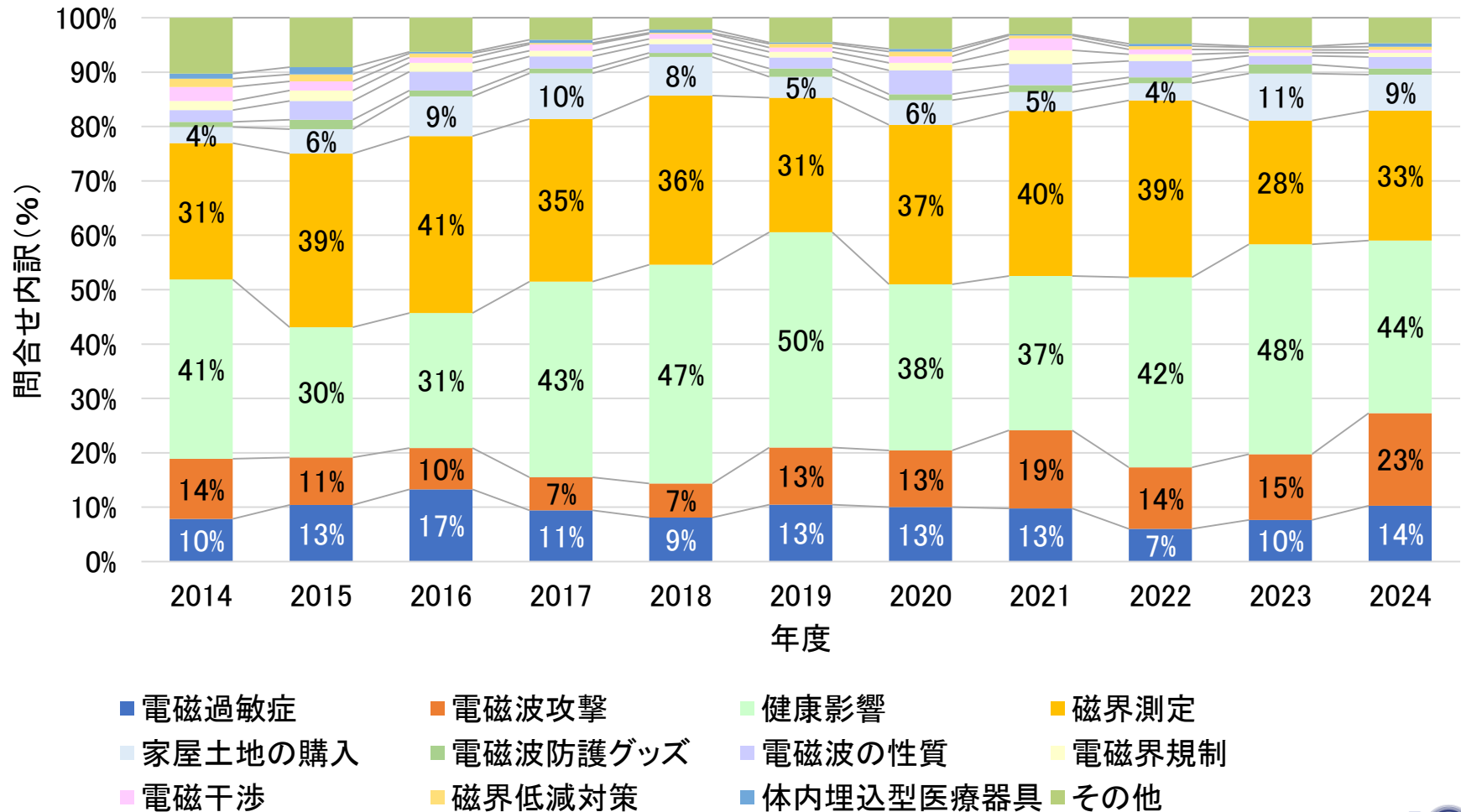


※ 1回に複数の問合せを含む

5. 問い合わせ対応状況(3/3)

内容別（複数回答）

2025年2月末現在



6. 対象層特化活動(妊婦の知識啓発)

- 妊婦はリスク認知が高くなることから、電磁波への過大な不安の払拭と正しい理解促進に繋がる知識啓発活動が重要であり、継続的に取り組んでいる。

1. 母子衛生研究会を介した妊婦への知識啓発活動

- 妊婦向けパンフレット配布継続
 - ✓ 母子衛生研究会が、「妊娠期から知っておきたい赤ちゃん和妈妈のための電磁波のはなし」を母子健康手帳の副読本と併せて配布
 - ✓ 配布部数: 66万部(2024年度)
- 母子保健セミナー(母子衛生研究会主催)
 - ✓ 10/7に講師を派遣
 - ✓ 講演動画のWEB配信
- WEBセミナー開催案内(JEIC主催)
 - ✓ 妊婦・小さい子供を持つ親に向けて母子衛生研究会SNSで開催案内を発信

母子保健セミナー(仙台)



2. 健やか親子21との連携

- WEBセミナー開催案内(JEIC主催)
 - ✓ 厚生労働省が推進する「健やか親子21」のメールマガジンや、SNSで参加団体、登録者に開催案内を発信

パンフレット



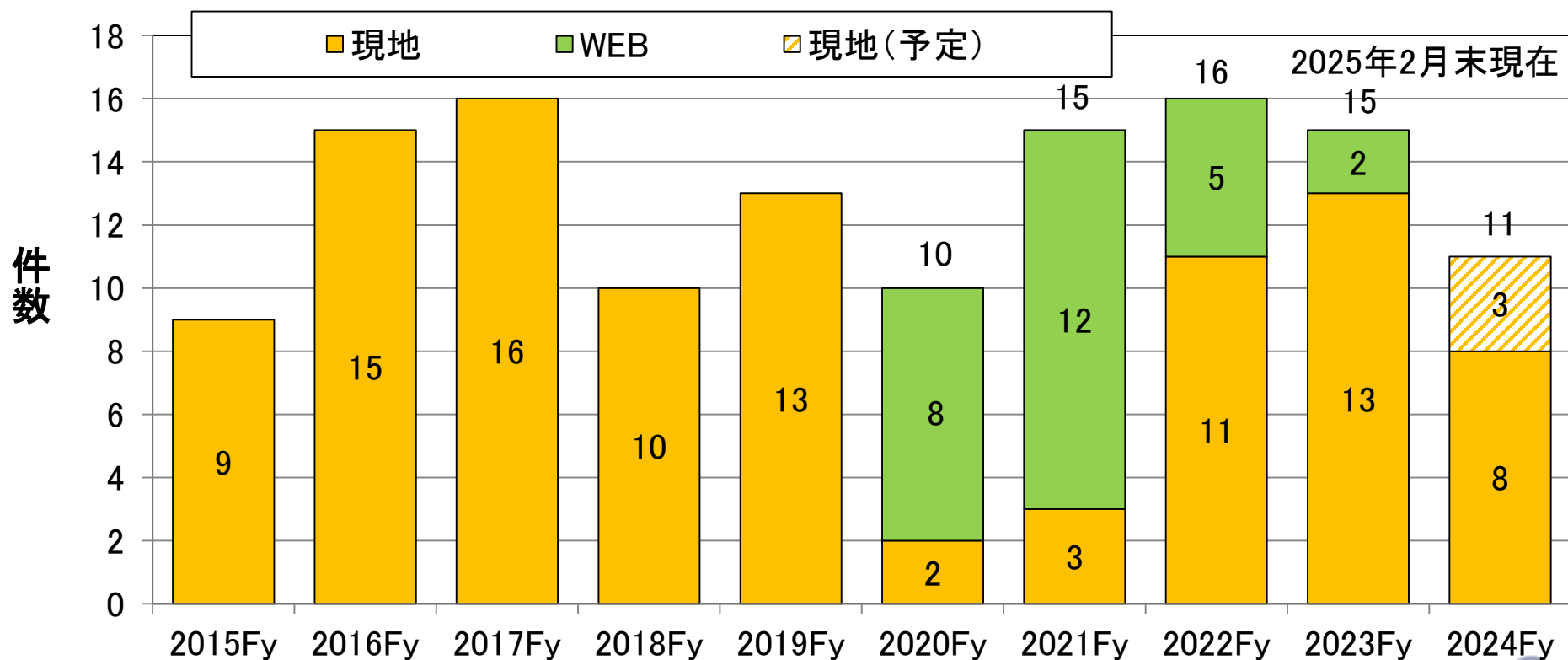
SNS案内



7.情報の媒介者を対象とした情報提供活動

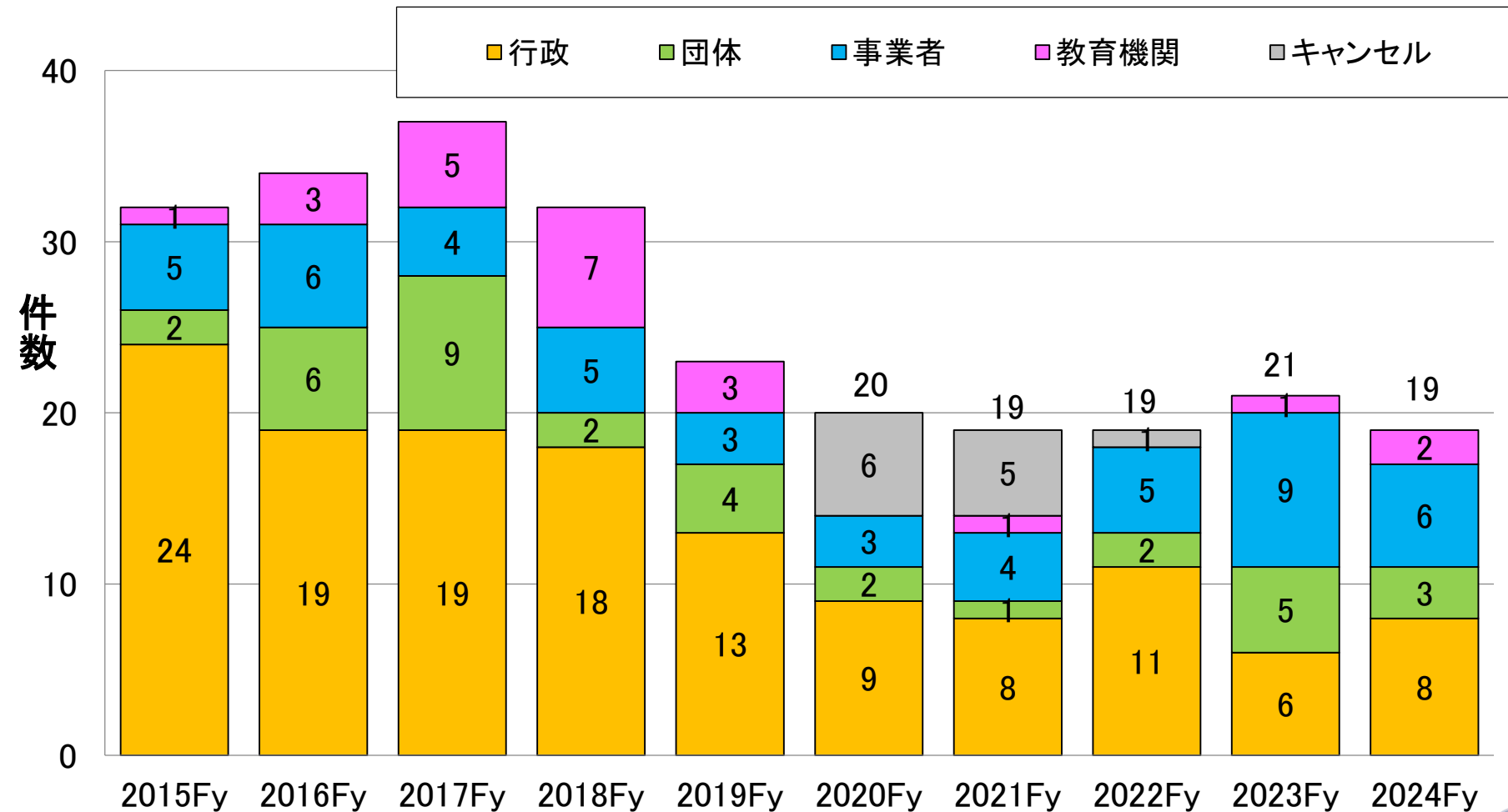
学校保健・社会医学・看護学関連学会等への参加状況

- 現地開催の学会等での講演は、8件実施した（今後の予定は3件）。
- 参加を予定していた学会のランチョンセミナー公募が中止されたこと等により、件数が5件減少したものの、代替件名を計画外で2件実施した。
- 参加費高騰のため、費用対効果の観点から次年度は実施数の抑制を検討。



8.依頼講演会

- 行政、団体、事業者からの依頼講演は、19件を実施した。
- 近年、依頼講演数が減少しているため、来年度以降の増加策として**国民生活センター等への講演ニーズ聴取りにより、掘り起こしを行った。**



9.WEBセミナー（1/3）

- WEBセミナーは、6つの講演テーマ、奇数月開催で計6回実施した。
- HP、チラシ、WEB広告、他団体のSNS等で情報宣伝を行い、申込数は平均42名、参加数は平均30名程度。
- 参加者からの要望に応え、**セミナー動画を参加申込者に限り、2024年11月より事後配信開始。**

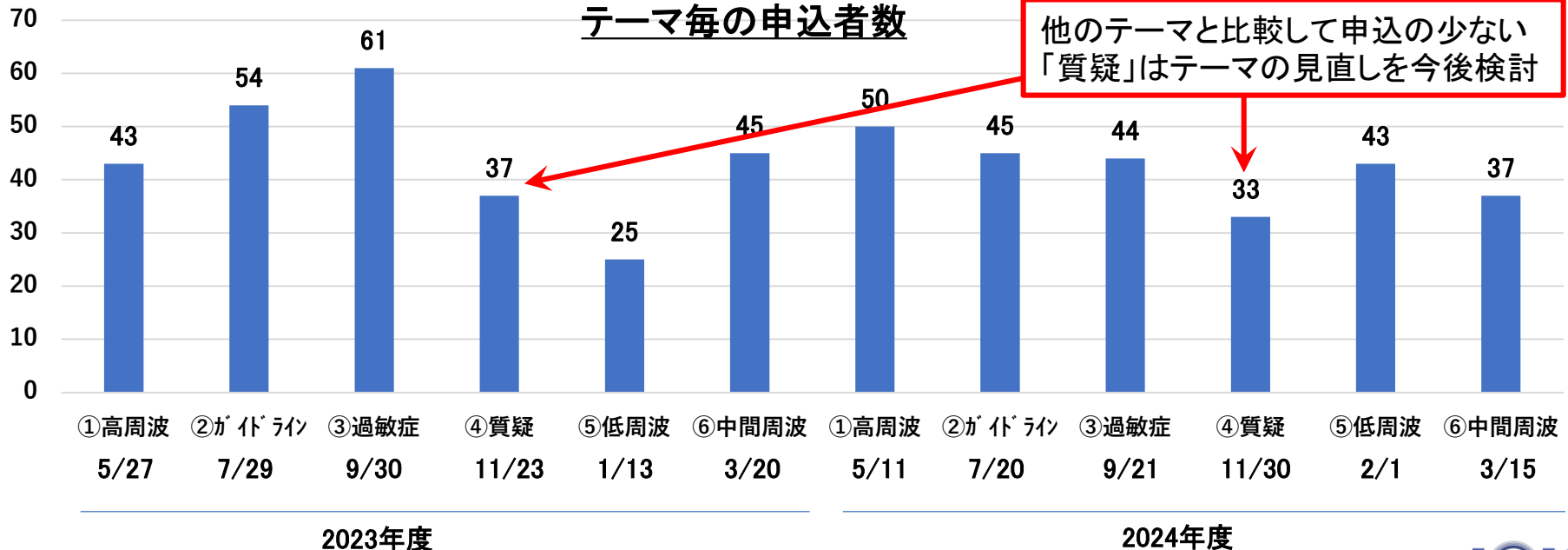
実施状況

- ・ 開催数： 6回
- ・ 申込者： 251人
- ・ 参加者： 175人(69.7%)

講演テーマ

- | | |
|-------------|------------------|
| ① 携帯電話(高周波) | ④ 質疑応答 |
| ② 国際ガイドライン | ⑤ 電力設備・家電製品(低周波) |
| ③ 電磁過敏症 | ⑥ IH・電子レンジ(中間周波) |

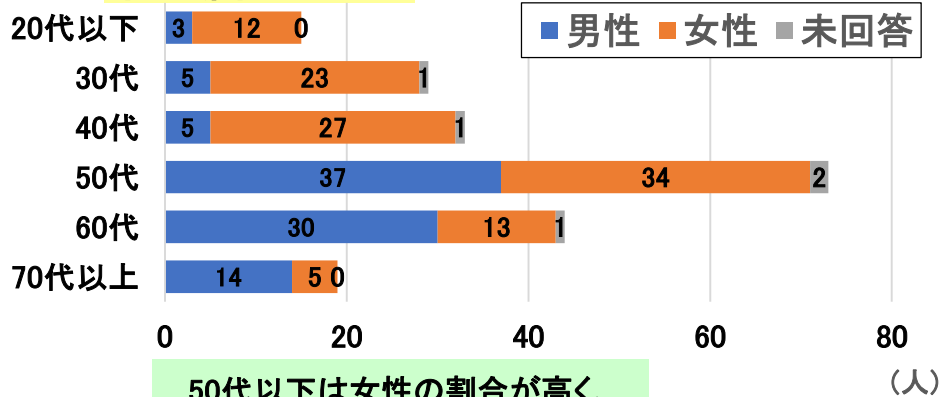
テーマ毎の申込者数



9.WEBセミナー（2/3）

2024年度（4月～2月末）アンケート集計結果

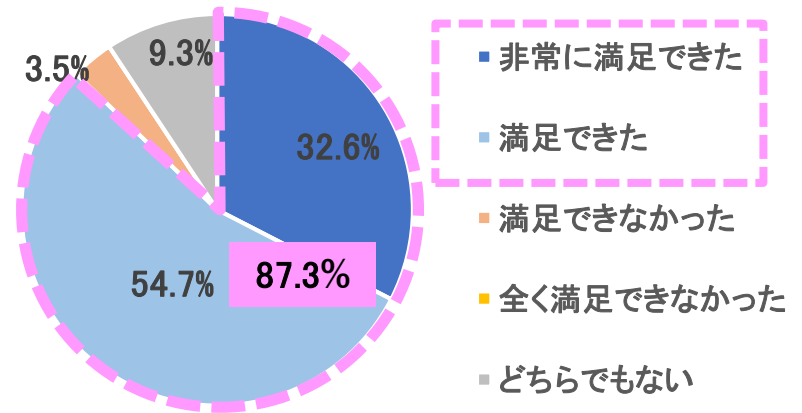
申込属性(n=215)



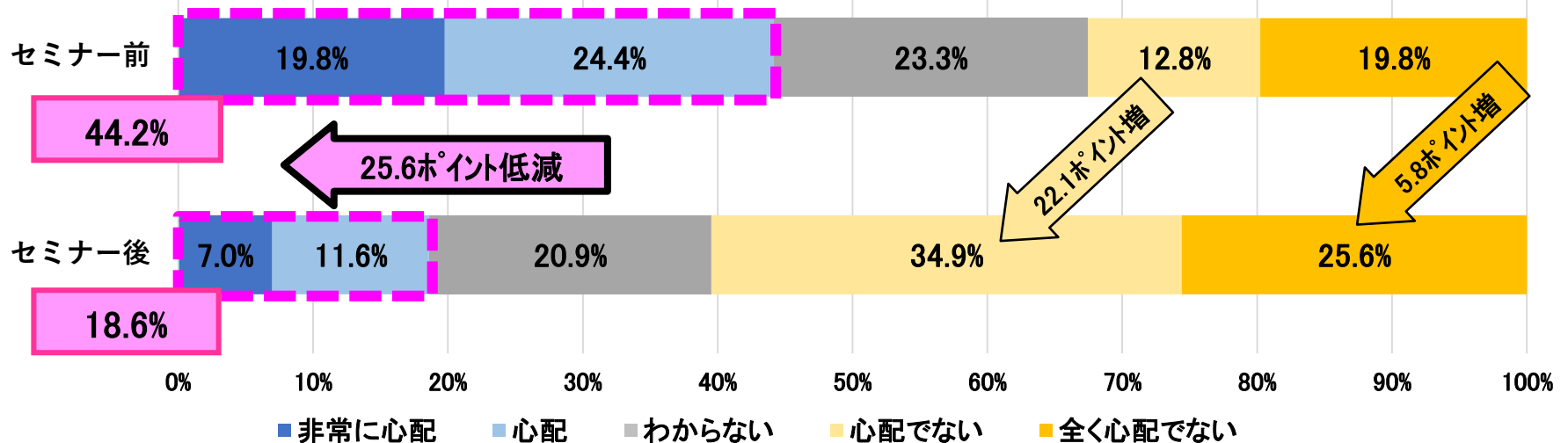
50代以下は女性の割合が高く、
60代以上では男性が高い。

満足度(n=86)

満足度合計



参加前後のリスク認知の変化(n=86)



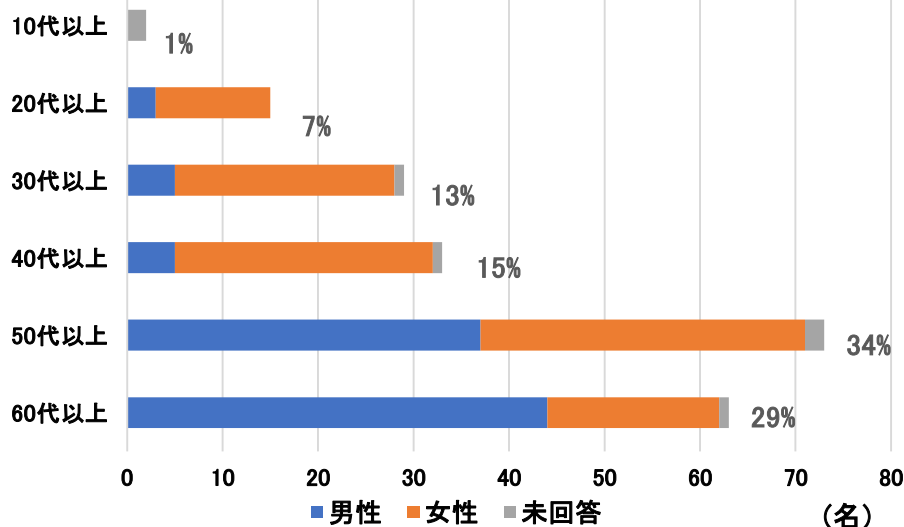
9.WEBセミナー（3/3）

参加者属性比較（WEBセミナーと現地開催の講演会との比較）

- 電磁界情報センターのWEBセミナーと現地開催の講演会（経済産業省・総務省共催）の参加者属性を比較すると、WEBセミナーの方が年齢層が若く、女性の割合が多い傾向が見られる。
- WEBセミナーは、40代～60代以上が中心で、20代と30代も合わせて20%あり、参加者の年齢層が幅広い。経産省・総務省共催の講演会は、60代以上が半数を占める。
- また、WEBセミナーは女性が多い(53%)が、経済産業省・総務省共催の講演会は男性が多い(65%)。

属性(n=215)

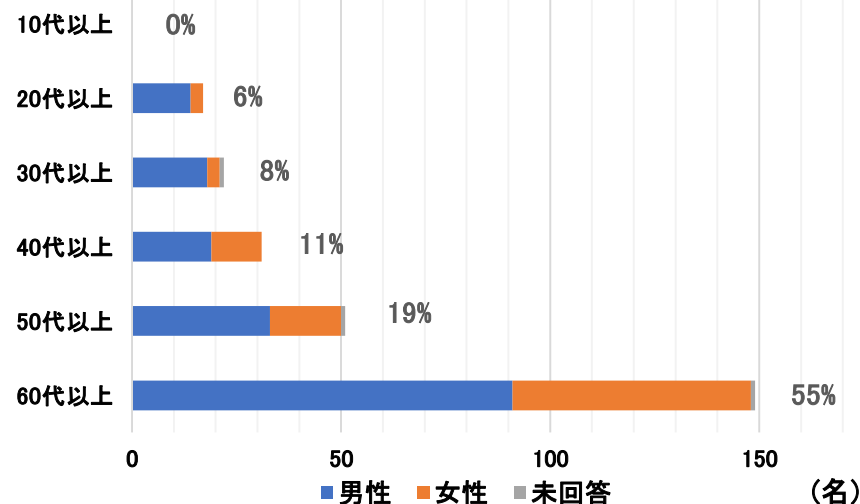
WEBセミナー



属性(n=270)

現地開催

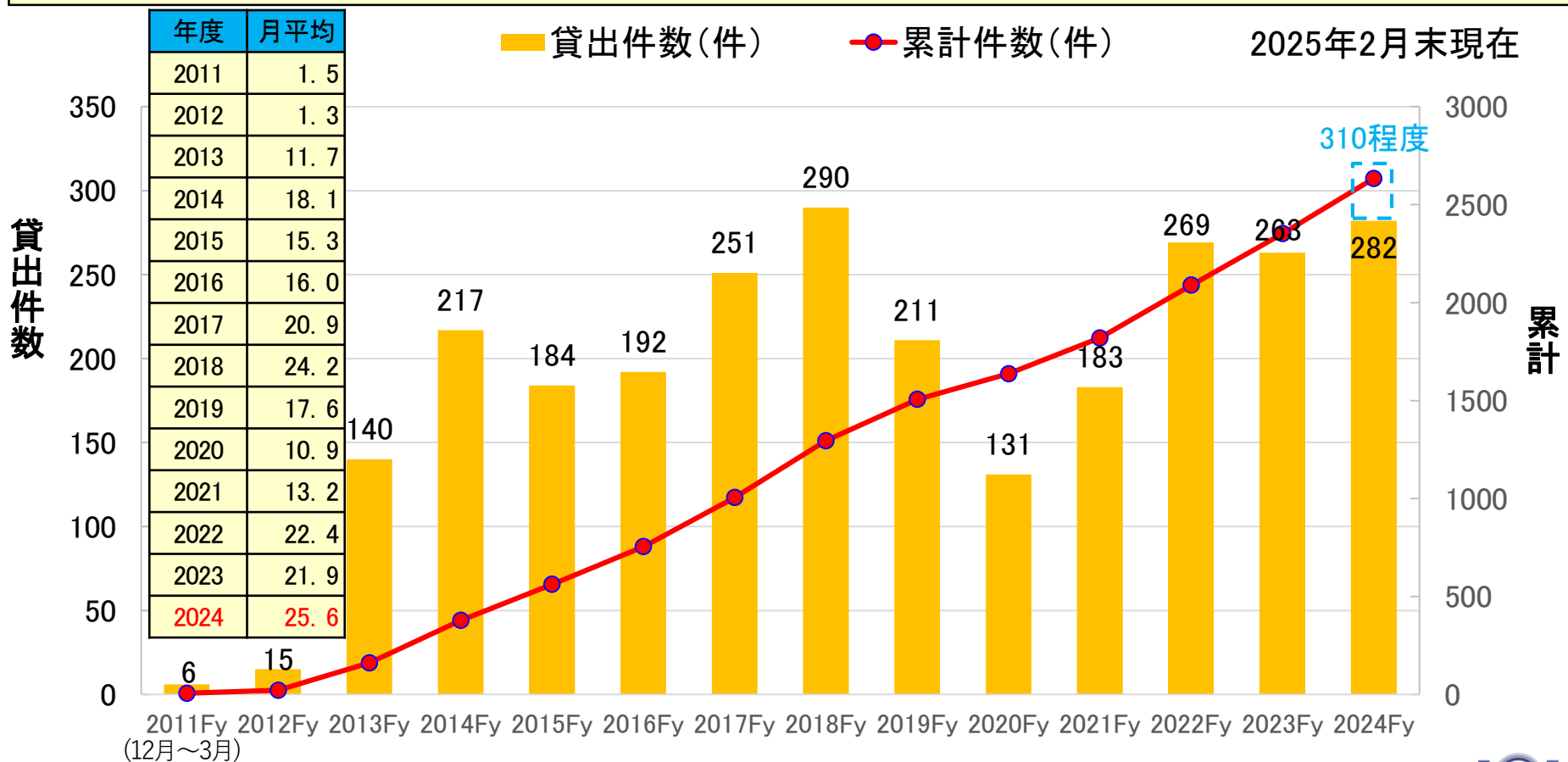
（経産省・総務省共催の講演会:2023年度実績）



10. 磁界測定器貸出(1/2)

測定器貸出件数の推移

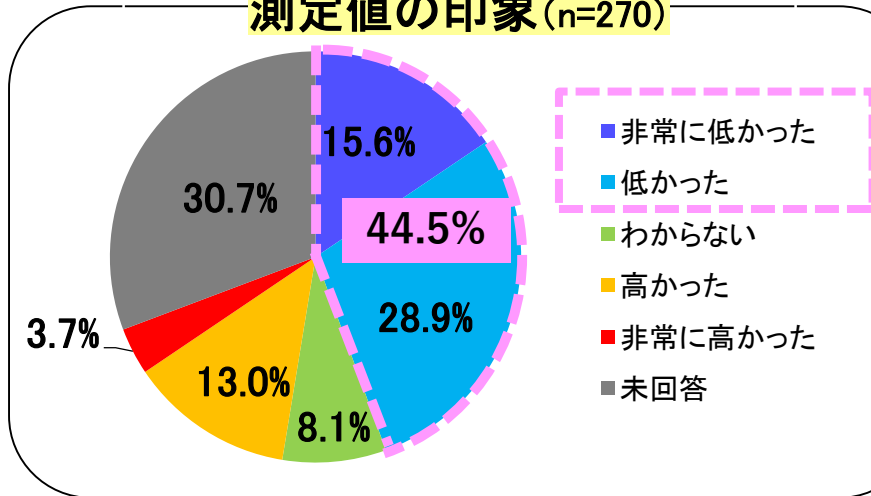
- 2024年度の貸出件数(282件)は、**昨年同時期(245件)**と比較し増加しており、**年間約310件の見通し**。
- 2024年度は土地・家屋の購入に伴う貸出しが多い。[2月末時点で95件(昨年同時期73件)]



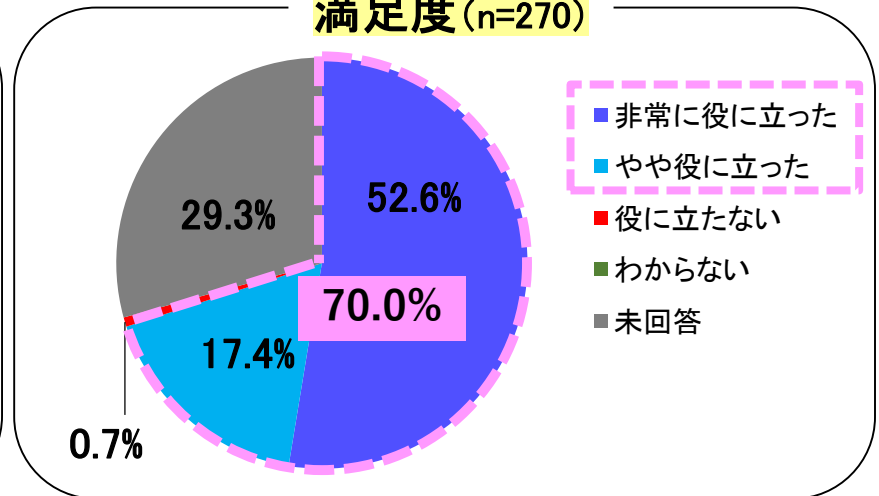
10. 磁界測定器貸出(2/2)

2024年度(4月~2月末)アンケート集計結果(返却完了分)

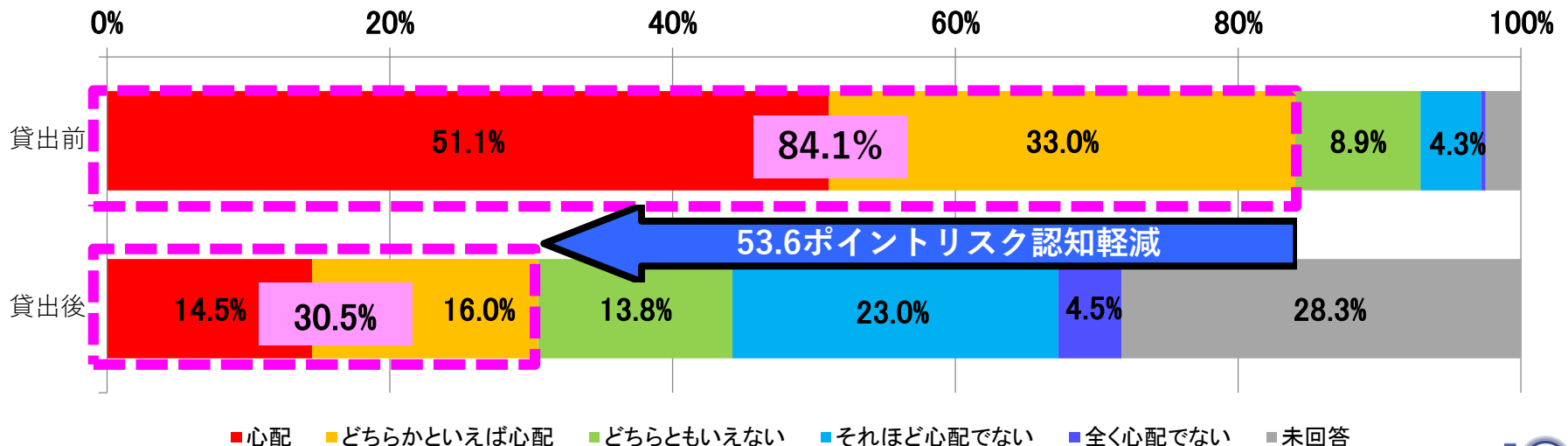
測定値の印象(n=270)



満足度(n=270)



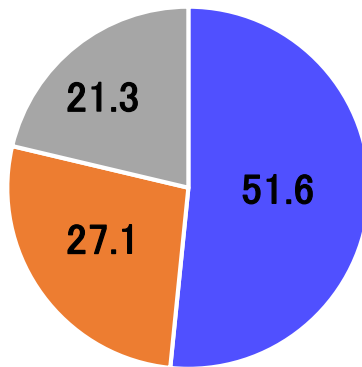
磁界測定前後のリスク認知の変化(n=270)



11. EMFリスクコミュニケーションの国際協力

- 2023年4月にポーランド情報技術・電気通信会議所(PIIT)と電磁気応用学会(PTZE)、ドイツ連邦放射線防護庁(BfS)の電磁界コンピテンスセンター(KEMF)と国際的協力体制に関する協定に合意した。2024年6月、同一の方法に基づいたリスク認知調査・分析を実施。JEICの調査方法としてはインターネット調査で、他の2か国は無作為電話調査(RDD)を実施したので、確認のため、JEICでもRDDで追加調査を実施(下図)。
- 2025年6月にフランス、レンヌで開催されるBioEM2025で、3か国が同会議でそれぞれが発表予定。その後3か国比較を行う予定。

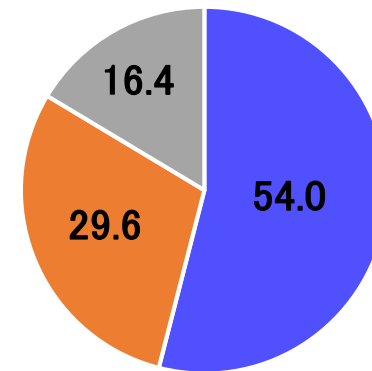
電磁界(インターネット調査)
n=1400



■ 心配しない ■ どちらでもない ■ 心配である

本調査での結果

電磁界(RDD)
n=113



■ 心配しない ■ どちらでもない ■ 心配である

追加調査での結果